

BB31 011

授業科目	政治学 (Political Science)		
担当教員	辻 中 豊、()	研究室	共同研究棟A306
単位数	2単位	オフィスアワー	月曜、金曜 夕方5-7時
学期曜時限	2学期 月3時限、3学期 集中	授業対象学生	1・2年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 政治学の入門的講義。政治的なものの概念、政治の分析方法などを紹介し、政治学の進んだ学習のための手掛かりを与える。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 政治学と政治への関心を喚起し、基本的な理解と研究方法への入門を行う講義。 【使用テキスト】 伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め 第三版』有斐閣、2009年 毎週、その講義に見合った新聞などからの切抜きを義務付ける。 【内容】 (1)政治とは？(2)投票？(3)テレビ政治(4)政治家とは(5)政党と利権・思想(6)官僚(7)コネとネットワーク(8)政策の作られ方(9)最高権力者(10)地方の自立(11)世界政治の行方(12)内政干渉(13)21世紀政治の試練(14)日本政治への疑問(15)国際社会の中の日本政治(16)政治分析の作法(17)日本政治のモデル(18)日本政治のアウトライン(19)公共政策(20)日本の選挙と政党(21)日本の制度と過程			
単位取得要件	切り抜き提出、試験、レポート、質問票の提出		
備考	CDP(学問と社会)		

BB31 021

授業科目	政治思想 (Political Thought)		
担当教員	近 藤 康 史	研究室	人社B412
単位数	2単位	オフィスアワー	火曜14:00～16:00(3学期のみ14:30～)
学期曜時限	1・2学期 火曜2時限	授業対象学生	1・2年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 現代の政治的・社会的変容を念頭に置き、身近に起こっている政治現象などを取り上げながら、政治思想・政治理論の現代的諸論点について考えていきたい。その過程で、各人が、「自由」「平等」「公共性」「民主主義」といった政治的概念について自分なりに考え、またそれを生かして、現代政治に対する自分なりの視角を獲得することを目標とする。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【講義予定】 具体的な講義内容は以下の通り。進行状況によって、若干の変更がありうる。 1. 現代政治の変容: 福祉国家の揺らぎ、国民国家の揺らぎ、脱伝統社会 (第1週～第7週) 2. 政治思想の現代的展開: リバタリアン/コミュニタリアン、ラディカル・デモクラシー、差異と自律の政治、国家と市民社会 (第8週～第15週) 3. 政治的概念の変容: 自由、平等、公共性、「政治的なもの」(第16週～第20週)			
【授業外の予習復習方法・教材等】 教科書は特に指定しない。参考文献は講義中に提示する。前回の内容を復習した上で講義に臨むこと。			
単位取得要件	1学期レポート(4割)+2学期末試験(6割)		
備考			

BB31 031

授業科目	政治外交史 (Political and Diplomatic History)		
担当教員	松岡 完	研究室	人社棟A403
単位数	2単位	オフィスアワー	11:30-12:00(1・2学期)
学期曜時限	1・2学期 金曜3時限	授業対象学生	1・2年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】</p> <p>【目標】現代の国際政治で生じているさまざまな事件の歴史的背景を知り、現代世界の序曲となった冷戦時代を中心に国際政治の歩みを把握すること。</p> <p>【要望】国際政治およびその歴史を楽しみながら、興味と知識を深め、各自で学び続けること。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】</p> <p>①序論 ②第一次世界大戦 ③第二次世界大戦 ④冷戦の開始 ⑤冷戦の激化と欧州の分断 ⑥中国革命 ⑦朝鮮戦争 ⑧インドシナ戦争と日本 ⑨平和共存路線の模索 ⑩西欧の防衛と統合 ⑪中東の戦火 ⑫動揺する社会主義陣営 ⑬東西対立の再燃 ⑭KK時代と多極化世界 ⑮革命とミサイル ⑯ベトナム戦争 ⑰デタント外交 ⑱激化する地域紛争 ⑲冷戦の終焉 ⑳結論</p> <p>【教科書】松岡 完『20世紀の国際政治 改訂増補版』同文館 2003年</p>			
単位取得要件	学期末試験もしくはレポート、および平常(出席を含む)点		
備考	社会・国際学群コア・カリキュラム。国際(BC11 651)と共通。		

BB31 141

授業科目	比較政治学Ⅱ (Comparative Politics Ⅱ)		
担当教員	鈴木 創	研究室	人社B408
単位数	2単位	オフィスアワー	予約により随時
学期曜時限	1・2学期 金曜2時限	授業対象学生	2～4年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】</p> <p>アメリカの国内政治に関する基本的な理解を獲得する。単に法的・形式的な制度を理解するだけでなく、制度が実際にどう運用されているか、それらが政治的決定や政治的行動をどう構造化しているのか、それらがなぜ存在しているのかといった点についても考察する。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】</p> <p>以下の流れで講義を進める予定。ただし、進み具合などによって変更する可能性もある。</p> <p>1. はじめに 2. 連邦制 3. 議会 4. 大統領制 5. 官僚制と裁判所 6. 政党と選挙 7. 利益団体</p> <p>教科書は特に指定しない。レジュメを配布するので、事前に目を通して授業に臨むこと。</p> <p>参考文献は随時紹介する。</p>			
単位取得要件	学期末試験		
備考			

BB31 151

授業科目	国際政治学 (Politics of International Relations)		
担当教員	南山 淳	研究室	人社棟B409
単位数	2単位	オフィスアワー	随時(Eメールで要予約)
学期曜時限	1・2学期 月曜4時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 国際政治における「理論」と「現実」の構成関係を座標軸として現代国際政治理論の批判的検証を行い、冷戦崩壊とグローバル化がもたらしたポスト・ウエストファリア体制下の世界秩序を展望する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 講義予定： ①現代国際政治と権力関係②冷戦の構造化／崩壊とリアリズム③相互依存／グローバル化とリベラル制度主義 ④国際社会と英国学派⑤南北格差とマルクス主義国際政治経済学 ⑥冷戦構造の崩壊と国際政治学のアイデンティティ・クライシス⑦コンストラクティヴィズムと国際政治規範の再構築 参考書：山田高敬・大矢根聡『グローバル社会の国際関係論』有斐閣；吉川直人・野口和彦『国際関係理論』勁草書房；南山淳『国際安全保障の系譜学』国際書院；T. Dunne, M. Kurki & S. Smith, International Relations Theories, Oxford U.P., 2007；J. Baylis ,S. Smith & P. Owens, eds., The Globalization of World Politics, 4th. ed., Oxford U.P., 2008.			
単位取得要件	学期末試験による		
備考	E-mail: minami@social.tsukuba.ac.jp		

BB31 191

授業科目	国際紛争論Ⅱ (Global Security and International Conflicts Ⅱ)		
担当教員	南山 淳	研究室	人社棟B409
単位数	2単位	オフィスアワー	随時(Eメールで要予約)
学期曜時限	3学期 月曜4・5時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 冷戦後／9.11後世界における国際紛争の構造的特質を考察する。本講義においては、特にグローバル化の拡大とアイデンティティ・ポリティクスという新しい現象によって引き起こされる現代国際紛争の構造変動過程に焦点をあてる。あわせて、近年、急速な発展を遂げている国際紛争および安全保障に関する新しい理論動向についても詳しく論じる。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【講義予定】 ① 新しい戦争と安全保障のグローバル化 ② 批判理論—批判主義的安全保障研究 (1) — ③ フェミニズム／ジェンダー・アプローチ—批判主義的安全保障研究 (2) — ④ ポストコロニアリズム—批判主義的安全保障研究 (3)— ⑤ ポスト構造主義 —批判主義的安全保障研究 (4)— ⑥ セキュリティゼーションとコペンハーゲン学派—批判主義的安全保障研究 (5) — ⑦ 人間の安全保障の逆説 ⑧ 「対テロ戦争」とグローバルテロ・ネットワーク ⑨ 軍事／情報技術革命と近代戦争の終焉 ⑩ 民間軍事会社と新しい戦争の政治経済学 参考書：南山淳『国際安全保障の系譜学』(国際書院)；M.カルドー『新戦争論』(岩波書店)；土佐弘之『安全保障という逆説』(青土社)；B. Buzan & L. Hansen, The Evolution of International Security Studies, Cambridge U.P. , 2009；C. Peoples & N. Vaughan-Williams, Critical Security Studies, Routledge, 2010.			
単位取得要件	学期末試験またはレポート。		
備考	国際と共通。		

BB31 231

授業科目	地方自治論(Local Autonomy)		
担当教員	伊藤 修一郎	研究室	人社B407
単位数	2単位	オフィスアワー	月曜4時限
学期曜時限	1学期 金曜5・6時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 身近な政府であり、民主主義の基本となる地方自治の制度や理論、地方自治体の組織や政策などについて、具体的事例に即して学び、市民として行動するために必要な知識を身につける。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 できるだけ具体例に即して自治体の現実を知り、自治の理論を理解できることを目指す。私たちに最も身近な政府である自治体に関心をもち、市民として関わっていくにはどうすればよいか議論していく。Moodleまたはウェブページを使って講義資料を提供し、あらかじめ資料をダウンロードして授業に臨んでもらう。その際、身近な自治体(ターゲット自治体)について、簡単なウェブ調査をしてもらうことがある。その調査結果を授業で報告してもらい、クラス全体で検討することによって、抽象論でない具体的な自治体像を把握することをめざす。すぐにMoodle登録できるよう、早い段階で履修登録しておいてほしい。			
授業内容(主なトピック): 地方自治体の種類、合併と広域行政、首長と議会、地方選挙、財政、中央地方関係、自治の理論と住民参加の制度、諸外国の地方制度、地方自治の歴史、地方分権改革、政府と社会の関係、自治体政策過程論 (地方公務員試験で扱われるトピックは概ねカバーする)			
研究室HP(http://member.social.tsukuba.ac.jp/ito/)			
単位取得要件	成績はクラス参加とメモ持ち込み可の試験で評価する予定		
備考	研究室HP(http://member.social.tsukuba.ac.jp/ito/)		

BB31 241

授業科目	行政学 I (Public Administration I)		
担当教員	伊藤 修一郎	研究室	人社B407
単位数	2単位	オフィスアワー	月曜4時限
学期曜時限	1・2学期 月曜5時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 現代日本における行政の仕組み及び活動について理解を深める。日本の行政はいかなる制度及び原理に基づいて活動しているのか、その活動がどのように政策に結実し、私たちの生活に影響を及ぼすのか。こうした疑問に対して、理論的に接近するとともに、具体例を扱いながら初学者にもわかりやすく説明していきたい。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 Moodleを用いて、事前に資料を提供しつつ(参加者がダウンロードする)、授業を進めていく。ビデオやウェブ教材、パワーポイントなども利用しながら、できるだけ具体的に行政現象が理解できるよう配慮しつつ、行政を理解するための理論・概念を提示していく。参加者も、新聞を読みニュースをフォローするなど、行政の動きに関心をもって授業に臨んでほしい。授業の冒頭では、できるだけ行政をめぐる最新的话题を取り上げるよう心がけたい。			
主なトピック: 行政・行政学とは何か、中央政府の制度(行政機関)、政策決定の実例(ビデオ)、政官関係(立法過程)、財政、行政システムの発展、行政改革、情報公開、政策の評価と廃止、政策の目的と手段、意思決定、行政責任・現代行政学の発展など(内容は進捗に合わせて適宜変更する) (行政学Ⅱのトピックと併せて、公務員試験の出題範囲を概ねカバーすることも目指します)			
テキスト 村松岐夫『行政学教科書:現代行政の政治分析』有斐閣、秋吉ほか著『公共政策学の基礎』有斐閣			
研究室HP(http://member.social.tsukuba.ac.jp/ito/)			
単位取得要件	ミニレポート及び期末試験(メモの持ち込みを認める)		
備考	国際と共通		

BB31 261

授業科目	カナダ政治 (Politics in Canada)		
担当教員	岩崎 美紀子	研究室	3K322
単位数	2単位	オフィスアワー	e-mailで予約
学期曜時限	2学期 月曜1・2時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 授業の目標と概要: カナダ政治を、①仏系と英系、②東部と西部、③連邦と州、④カナダと英国、から分析できるようにする。政府と市民の観点から、1990年代に自由党政権が行った財政再建の意味を理解する。 学生への要望: 議論への参加、小テストへの積極的取り組み(授業内容の理解と復習)により基礎知識の確保を期待する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 授業計画: ○地理(州と準州)、地域区分、建国の歴史。○行政改革と財政再建、自由党政権の財政再建の成功の理由、政策見直し、政府の再定義。○遠心力と求心力、2つの地域主義、アイデンティティ、国家統合、自治と統合。○西部カナダ、西部の疎外、西部開拓と秩序、西部と連邦政府。○ケベック、フランス系カナダからケベコワへ、文化次元と政治次元、平等か独立か、主権・連合。○連邦制、カナダ連邦制の特徴、憲法、総督と副総督、社会政策、財政移転。○ウェストミンスター型議院内閣制、政党制、1993年以降の変化。 各テーマで小テストを実施するので、復習が必須。 教材: 『行政改革と財政再建 -カナダはなぜ改革に成功したのか-』(御茶の水書房)、『分権と連邦制』(ぎょうせい)、レポートのためには『「知」の方法論』(岩波書店)			
単位取得要件	出席3分の2以上。小テストの成績。内容と構成要件を満たすレポート。		
備考	国際(BC11 161)と共通。		

BB31 321

授業科目	日本政治思想 (Japanese Political Thought)		
担当教員	竹中 佳彦	研究室	人社B410
単位数	2単位	オフィスアワー	1学期は木曜4時限、2学期は木曜3時限
学期曜時限	1・2学期 木曜2時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 【授業目標】「昭和」期の知識人の言論活動を通して今日の問題の理解を深めること。 【授業概要】1930年代から1960年ごろまでの日本の思想状況を、最高裁判所長官を務めた横田喜三郎元東大教授(国際法)を軸に、同時代の知識人の言論も対比しつつ、考察します。以下は予定です。受講生の理解度等によって進捗と内容は変わることがありますので、予めご了承下さい。 【学生への要望】予習・復習を行って下さい。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【授業予定】受講生の理解度等によって進捗と内容が変わりうることをあらかじめご了承下さい。 第1回 開講の辞(ガイダンス) 第2回～第5回 日本における「自由主義」 第6回～第10回 満州事変前後から日中戦争開始まで 第11回～第13回 太平洋戦争中 第14回～第17回 占領期 第18回～第20回 講和から安保改定まで 【使用教科書・参考文献】教科書はとくに指定しません。当日の授業出席者のみにレジュメを配付する予定です。予習・復習のための参考文献として、竹中佳彦『日本政治史の中の知識人』上・下、木鐸社、1995年。その他の参考文献は、適宜、指示します。			
単位取得要件	原則として試験により評価します(試験に合格しなければ、どのような事情があれ、単位は与えません)。甚だしく出席が少ない場合には出席をとり、評価に加味することがあります。また私語や遅刻、途中退室など、授業態度が悪い等の場合には、単位を与えないことを含め、評価に反映させることがあります。		
備考	国際と共通		

BB31 331

授業科目	東洋政治思想 (East Asian Political Thought)		
担当教員	古田 博司	研究室	3K422
単位数	2単位	オフィスアワー	火曜4時限・金曜6時限
学期曜時限	2・3学期 金曜5時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 東アジアの政治思想について学び、同地域の外交・安保問題を考える。概要は以下の通り。 ① 東アジアという概念の問題点 ② 日本文明圏と中華文明圏の相違点 ③ 東アジアの安全保障問題 なお、ビデオ併用で授業を行う。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 1. 東アジアという物語の終焉 「アジア」・「東洋政治思想」という語彙 — 西洋勢力の東漸— 「大東亜共栄圏」・「東亜協同体」・「東アジア共同体」の虚構性 — 反米の補償行為— 「東アジア文化圏」学習指導の無理 — 文科省第7期学習指導要領における放棄— 東アジア世界とは果たしてあるのか？ — 文化内容も領域も確定できない「世界」— 2. アジア主義者たちの蹉跎 戦前のナショナリストの「国家主義」と「アジア解放」 — そして彼らは戦争へと向かった— 戦後リベラリストの「平和主義」と「アジア贖罪意識」 — そして彼らは国を売る— アジア主義とは何だったのか？ — 欧化・優越・連帯の三基軸構造— 3. 東アジア・イデオロギーを超えて 東アジア中華思想共有圏の形成史 — 礼と華夷秩序の世界— 東アジア「反日」トライアングルの形成 — そして彼らは反日へと走った— 日本文明圏と中華文化圏との永遠の決別 — 「東アジア」ではない日本・38度線で「島化」した韓国— 4. 東アジアにおける核の不均衡 中国一党独裁と国家総動員体制 — 独裁・非人権の「遅れてきた帝国主義者たち」— 北朝鮮の世襲と核・ミサイル・マスゲーム — 前近代に退化した王朝国家— 尖閣沖中国漁船体当たり事件と北朝鮮延坪島砲撃事件 — 中朝安全保障の攻撃性— 中国・北朝鮮の「助け・裏切り・恨まず」関係の歴史 — 中朝の地政学— 教科書：古田博司『東アジア・イデオロギーを超えて』（新書館、読売・吉野作造賞受賞作） 古田博司『東アジア「反日」トライアングル』（文春新書）			
単位取得要件	出欠点と期末テスト		
備考	国際と共通		

BB31 361

授業科目	現代政治分析 (Contemporary Political Analysis)		
担当教員	近藤 康史	研究室	人社B412
単位数	2単位	オフィスアワー	火曜14:00～16:00(3学期のみ14:30～)
学期曜時限	3学期 火曜2・3時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 本講義は、「政治分析」を行う際の様々な理論や方法を検討し、どうすれば学問的な「政治分析」が成立するのかを最大の論点とする。その中で、①様々な政治分析の理論・方法について理解し、②実際に政治分析を行う力を養うことを目標とする。単に抽象的な理論の検討にとどめず、その理論を用いて実際にどのような「分析」が行われてきたのかを、具体的に例示・検討していく。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【講義予定】 1. 政治分析とは？(第1～2週) (1)「政治」を「分析」するということ (2)「政治分析」の対象と範囲 2. 政治分析の基礎的理論(第3～4週) (1)「行為者」からの政治分析(2)「構造」からの政治分析(3)「文化」からの政治分析 3. 政治分析の現代的展開(第5～10週) (1)権力資源論(2)合理的選択論(3)新制度論の諸潮流(4)構成主義と「アイディア」の政治 【授業外の予習復習方法・教材等】 講義ではパワーポイントをい、スライドのレジュメを教材として毎回配布する。また参考文献についても講義中に紹介する。予習復習には、これらの教材・参考文献を利用すること。 また、受講者は、自身の研究テーマや論文執筆を常に念頭において本講義を受講すると、より効果的だろう。			
単位取得要件	中間レポート(3割)＋期末レポート(7割)		
備考	国際と共通。		

BB31 391

授業科目	欧米政治外交史Ⅱ (Western Political and Diplomatic History Ⅱ)		
担当教員	松岡 完	研究室	人社棟A403
単位数	2単位	オフィスアワー	13:00-13:30(3学期)
学期曜時限	3学期 金曜2・3時限	授業対象学生	2～4年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】 【目標】20世紀最後の四半世紀から今日にいたるまでアメリカ外交に制約を加え続けている「ベトナム症候群」と呼ばれる後遺症について知ること。 【要望】講義内容を手がかりに、各自が関心を抱くテーマについてさらに学ぶこと。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 ①建国200年目の敗戦 ベトナム経験がアメリカをどうかえたか？ ②癒しを求める旅 米国民は史上初の敗戦という事実に向き合ったか？ ③砂上の蜃気楼 湾岸戦争の華々しい勝利はなぜベトナム症候群を払拭できなかったか？ ④復活途上の超大国 冷戦後のアメリカはベトナム症候群からどこまで回復したか？ ⑤窮屈な対外介入 冷戦後のアメリカによる軍事介入にはどのような制約があるか？ ⑥アメリカ式戦争への回帰 実際の軍事介入はどのように実施されてきたか？ ⑦アフガニスタンとイラクを超えて 「9・11」後のアメリカはどうなったか？ 【教科書】 松岡 完『ベトナム症候群』中公新書 2003年 (昼休みを置かず、2～3限連続して授業を行う予定。なお事情により上記の授業内容が変更される可能性もある。その場合は第1回授業時に説明する。)</p>			
単位取得要件	学期末試験もしくはレポート、および平常(出席を含む)点		
備考	国際と共通。原則として「政治外交史」既修者を対象とする。		

BB31 411

授業科目	現代政治外交Ⅱ (Contemporary Politics and Diplomacy Ⅱ)		
担当教員	竹中 佳彦	研究室	人社B410
単位数	2単位	オフィスアワー	原則として学期中の木曜3時限
学期曜時限	2・3学期 木曜4時限	授業対象学生	2～4年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】 【授業目標】現代日本をめぐる政治・外交を理解するための歴史と理論・分析視角の修得。 【授業概要】1980年代から現在までの日本を取り巻く外交・防衛について概説し、現在、日本が置かれている政治・外交上の諸問題について考えるための材料を提供したいと思います。 【学生への要望】予習・復習を行って下さい。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【授業予定】受講生の理解度等によって進度と内容が変わりうることをあらかじめご了承下さい。 第1回 開講の辞(ガイダンス) 第2回～第4回 日米「同盟」とロン・ヤス関係 第5回～第7回 湾岸戦争とPKO法の成立 第8回～第10回 日米安保「再定義」 第11回～第13回 イラク戦争と日本 第14回～第17回 米軍再編と防衛計画大綱再改訂 第18回～第20回 アジアとの関係 【使用教科書・参考文献】教科書はとくに指定しません。当日の授業出席者のみにレジュメを配付する予定です。予習・復習のための参考文献として、松岡完他編『冷戦史』同文館、2003年。その他の参考文献は、適宜、指示します。</p>			
単位取得要件	原則として試験により評価します(試験に合格しなければ、どのような事情があれ、単位は与えません)。甚だしく出席が少ない場合には出席をとり、評価に加味することがあります。また私語や遅刻、途中退室など、授業態度が悪い等の場合には、単位を与えないことを含め、評価に反映させることがあります。		
備考			

BB31 451

授業科目	アジアの国際関係 (International Relationship in Asia)		
担当教員	首藤 もと子	研究室	K-418
単位数	2単位	オフィスアワー	随時。メールにて事前に予約
学期曜時限	1学期 月曜5・6時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 アジア太平洋地域における地域主義の変遷とグローバル化に伴うアジアの国際政治経済学の課題や越境的ガバナンスの課題について、理解を深めるようにします。主な目標は次の3点です。① アジアにおける「冷戦」の構造的特徴について説明できる。② 冷戦後のアジアの国際関係の特徴について説明できる。③ ASEANをハブとする東アジアの地域主義の特徴と課題について説明できる。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 (1) アジアのナショナリズムと国家形成の課題 (2) アジアにおけるナショナリズムと地域主義の展開 冷戦期のアジアの地域主義、東アジアと南アジアの国際構造の相違 (3) グローバル化時代における重層的な地域主義の機能と制度 (4) ASEANとハブとするアジアの外交の多様化 ASEAN Regional Forum (ARF) にみるアジアの多国間安全保障レジームの評価 (5) 「ASEAN+3」と「東アジア共同体」をめぐる日本と中国の外交 (6) ASEAN安全保障共同体とミャンマー問題 (7) ASEAN経済共同体と域外諸国・地域とのFTA/EPA交渉の課題 (8) ASEAN社会文化共同体と国境を越えた問題への対応 (9) 人の国際移動に関する地域的ガバナンスの課題 (10) アジアにおける越境的な市民社会の可能性と課題 授業では毎回レジメを配布しますが、それと別に、以下の文献も参考書として使用します。Donald K. Emerson ed., Hard Choices, Security, Democracy and Regionalism in Southeast Asia, Singapore: Institute of Southeast Asian Studies, 2009. 高原明生他編『現代アジア研究 第1巻 越境』慶應大学出版会、2008年。片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門』有斐閣ブックス、2007年。谷口誠『東アジア共同体』岩波新書、2004年、780円。その他、授業において参考文献等を紹介しします。			
単位取得要件			
備考	国際 (BC11 221) と共通		

BB31 461

授業科目	アジア政治 (Politics in Asia)		
担当教員	首藤 もと子	研究室	K-418
単位数	2単位	オフィスアワー	随時。メールにて事前に予約
学期曜時限	2学期 月曜5・6時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 この授業では、東南・南アジアの政党制度と選挙制度、軍・官僚機構の機能の変遷、経済政策とガバナンスの課題について、比較考察します。授業の主な目標は次の3つです。① アジアの複数の統治機構について、各々固有の特徴を説明できる。② アジア政治を比較するうえで、普遍的な視点を説明できる。③ グローバル化時代におけるアジア政治の課題について説明できる。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 (1) アジア政治を考える視点 (2) 国家形成と軍の政治的機能――インドネシア、ミャンマー、パキスタンの事例 (3) アジア諸国の統治機構 1. 民主的政治制度と寡占的エリート支配：フィリピンの民主主義体制の理念と現実 2. 議会制民主制度と覇権的与党連合体制：マレーシアの政治制度と経済開発戦略 3. グローバル化時代の国家管理体制：シンガポールのPAP 4. 多様性と民主的制度の調和の模索：インドネシア 5. 民主化と保守的権力エリート層の対峙：タイ 6. インドの政党政治の変容：民主的制度と社会構造 (4) グローバル化時代におけるアジア政治の課題 1. 民主化と分権化の現状――インドネシアの分権化 2. 腐敗とガバナンスの課題 ***** 授業では毎回レジメを配布しますが、それと別に参考書については、授業で随時紹介しします。なお、以下のものは、参考書として利用しします。 岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、中央公論新社、2009年。 片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門』有斐閣ブックス、2007年。 谷口誠『東アジア共同体』岩波新書、2004年、780円。その他、授業において、随時関連論文、資料等を紹介しします。			
単位取得要件			
備考	国際 (BC11 021) と共通。		

BB31 491

授業科目	計量分析入門(Introduction to quantitative Analysis)		
担当教員	崔 宰 栄	研究室	人社A813
単位数	2単位	オフィスアワー	予約要(choe.jaeyoung.fu@u.tsukuba.ac.jp)
学期曜時限	3学期 月曜3時限・木曜3時限	授業対象学生	2～4年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】</p> <p>計量分析は、溢れる情報からの物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、社会科学等の多くの分野で用いる分析ツールの1つである。この授業では、そのツールを正しく使うための基礎統計や使い方の理解を目標とする。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】</p> <p>授業目標：計量分析に必要とする基礎統計とその分析ツールの理解</p> <p>授業内容：第1回 計量分析の概要 第2回・第3回 度数分布表・図 第4回 代表値（平均など） 第5回 散布度（偏差、標準偏差、分散など） 第6回・第7回 相関分析 第8回・第9回 回帰分析 第10回 SPSSの使い方</p> <p>授業では、統計の基本概念などの理解と、分析ツール(主にエクセルを使用、SPSS)を用いた演習を行なう。</p> <p>使用教科書：オリジナルテキスト。</p>			
単位取得要件	出席、試験(もしくはレポート)により総合評価する。		
備考			

BB31 112

授業科目	政治学外書講読(英語)		
担当教員	竹中 佳彦、崔 宰 栄	研究室	人社B410(竹中)、人社A813(崔)
単位数	2単位	オフィスアワー	電子メールで予約をすること
学期曜時限	1・2学期 木曜3時限	授業対象学生	2・3年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】</p> <p>政治学に関する英語文献を講読し、専門的な英語文献を自力で読みこなす能力を養う。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】</p> <p>1学期は竹中、2学期は崔が担当する。 各学期テキストを指定し、受講者による和訳、要約、内容に関する討論を中心とした授業を行う。 受講者は各自十分な予習をして授業に臨むこと。 テキストや授業の進め方の詳細については、開講時に指示する。</p>			
単位取得要件	授業中の報告、レポートあるいは学期末試験等で総合的に評価する。		
備考	1年生の受講は認めない。また社会学類で政治学専攻(予定を含む)の学生の受講を優先する。		

BB31 122

授業科目	政治学入門演習(Introductory Seminar of Politics)		
担当教員	古田 博司、伊藤 修一郎、鈴木 創	研究室	3K422(古田) 人社B407(伊藤) 人社B408(鈴木)
単位数	3単位	オフィスアワー	火曜4時限・金曜6時限(古田) 月曜4時限(伊藤) 予約により随時(鈴木)
学期曜時限	1・2・3学期 水曜6時限	授業対象学生	2年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】</p> <p>【授業目標】政治学における基礎的な概念・方法・知識の修得。</p> <p>【授業概要】政治学の基礎概念について、2年生を対象として、政治学研究への入門的指導を三期に分けて行う。</p> <p>【学生への要望】授業での報告・討論への積極的な参加と授業外の予習・復習を求める。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】</p> <p>【授業予定】第1回 ガイダンス、第2～10回 各自の報告と討論 第11回 ガイダンス、第12～20回 各自の報告と討論 第21回 ガイダンス、第22～30回 各自の報告と討論</p> <p>テキスト等については学期当初に担当教員が指示する。予習・復習についても各学期の担当教員の指示に従うこと。</p>			
単位取得要件	授業への出席状況および各担当教員の総合評価。		
備考	社会学類の学生の受講を優先する。		

BB後日付番

授業科目	政治学演習Ⅱ (Seminar on Political Science Ⅱ)		
担当教員	辻 中 豊、()	研究室	共同研究棟A306
単位数	3単位	オフィスアワー	月曜、金曜 夕方5-7時
学期曜時限	1～3学期 木曜6時限	授業対象学生	3・4年次(1,2年次も可能)
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】</p> <p>現代政治を分析するために、問題意識、文献の体系的レビュー、データ収集・分析から研究計画、仮説設定・検証まで経験的な分析方法を踏まえて、3年次レビュー論文、4年次卒業論文を執筆するための論文指導をおこなう。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】</p> <p>目標:現代政治学や社会科学の問題意識や基礎知識・技能の共有化を図りつつ、各自が自己の問題意識に基づきながら、現代政治・社会に関する創発的・原著的研究を行う。</p> <p>3年生:自分の問題意識に沿った体系的な学習と研究。ゼミ:基礎的な研究、研究文献の体系的レビュー。基礎的なデータ収集と分析。研究論文・2次資料中心での独立論文。課題研究。1学期:4, 5月:共通の問題意識・方法論研究。この間、Office Hourを利用した問題意識文章化。6月:Proposal発表。夏休み:日本と世界の文献の体系的収集とレビュー。9月第一週合宿:A4ワープロで10ページ成果報告。2学期:現代世界研究の共通図書研究と自己研究の発表。11月以降、独立論文執筆。3学期:卒業研究に向けた準備。11月OBOG会。</p> <p>4年生:前半:将来の進路、職業選択の体系的検討、就職活動。受験準備。後半(7, 8月以降):原著的で実証的な卒業研究。11月中旬発表。12月完成。</p> <p>義務:研究(自分)ノートの作成。</p> <p>今年のゼミは、社会科学の方法論も1学期にしっかり修得してもらいたいと思います。研究者やジャーナリスト、政治家、NGO・NPOの活動家の志望者にも向いているゼミだと思います。</p> <p>また大学院修士課程の留学生、同志望の研究生(留学生)など多国籍の学生を交えた国際的なゼミの運営を目指しています。年度途中から海外に留学する学生も参加可能[継続履修あり]です。</p>			
単位取得要件	課題提出、成果報告、ゼミ論文提出		
備考	ゼミは多元性が必要です。学年を問わず他学類・他専攻を含め多様な、多国籍の学生を歓迎します。		

BB31 152

授業科目	比較政治学演習 I (Seminar on Comparative Politics I)		
担当教員	鈴木 創	研究室	人社B408
単位数	3単位	オフィスアワー	予約により随時
学期曜時限	1～3学期 火曜4時限	授業対象学生	3・4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 日本や諸外国における選挙と政策形成に関する文献を講読し、比較の視点も交えながら各国の政治を考察する。各回の報告者はもちろん、それ以外の者も積極的に討論に参加することを期待する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 共通の文献を読み、毎回報告者を決めて報告、質疑、討論を行う。受講者全員が文献の内容を理解するだけでなく、それに対するコメントを用意してゼミに臨むこと。 また、各自の自由な関心に基づいてテーマを設定し、文献報告・研究報告を定期的に行う。最終的にゼミ論文を執筆する(3年生はレビュー論文、4年生は研究論文)。 使用する文献は、開講時に指示する。			
単位取得要件	出席、報告、討論への参加、ゼミ論文などで総合的に評価する。		
備考			

BB31 172

授業科目	国際政治学演習 I (Seminar on International Politics)		
担当教員	南山 淳	研究室	人社棟B409
単位数	3単位	オフィスアワー	随時(メールで要予約)
学期曜時限	1～3学期 月曜6時限	授業対象学生	3・4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 国際政治理論と国際紛争の具体的事例と関連づけながら現代国際紛争の諸問題について検討する。無断欠席厳禁。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 「社会科学」としての国際政治学に必要な思考訓練を徹底して行い、現代国際政治分析に不可欠なスキルの修得を目標とする。例年、テキスト輪読、学生による研究報告と討論、他大学との合同ゼミ(学生によるディベート)等を実施しているが、具体的な内容については受講者と相談のうえで決定する。3年次は、各自研究テーマを決定し、卒業論文(またはゼミ論文)の構成目次および概要(4000字程度)の提出、卒業年次は同論文の完成稿提出を各年度の単位取得要件として研究指導を行う。現代国際紛争および国際政治研究に関心があり、かつ意欲のある者であれば、学類・主専攻は問わない。 【参考書】 吉川直人・野口和彦 編『国際関係理論』(勁草書房); M.カルドー『新戦争論』(岩波書店); J. Baylis, S. Smith & P. Owens, eds., The Globalization of World Politics, 4th. ed., Oxford U.P., 2008; 高根正昭『創造の方法学』(講談社現代新書); 茂木秀昭『ザ・ディベート』(ちくま新書); 戸田山和久『論文の教室』(NHKブックス)			
単位取得要件	出席状況、ゼミにおける発言・報告内容、卒業論文またはゼミ論文(3年次は論文概要)等による総合評価。		
備考	E-mail: minami@social.tsukuba.ac.jp		

BB31 202

授業科目	現代政治外交演習Ⅱ (Seminar on Contemporary Politics and Diplomacy Ⅱ)		
担当教員	竹中 佳彦	研究室	人社B410
単位数	3単位	オフィスアワー	1学期は木曜4時限、2・3学期は木曜3時限
学期曜時限	1～3学期 木曜5時限	授業対象学生	3・4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】			
【授業目標】輪読に基づく討論を通じて、日本の政治・外交、または政治学について研究するとともに、ゼミ論文もしくは卒業論文を完成させること。			
【授業概要】現代日本の政治、あるいは外交に関する文献を輪読するとともに、ゼミ論文(註・参考文献つき、400字詰め原稿用紙換算20枚以上)を完成させることを目指します。			
【学生への要望】ゼミ論文は、400字×20枚以上、註・参考文献リストつき、ワープロソフトで40字×30行/頁とし、フロッピーディスク及びアウトプットを提出してもらいます。テーマは、日本の政治・外交・政治史・政治思想、比較政治、政治学に関するものから、各自の関心によって選択してかまいません。ただし何度でも書き直しをお願いすることがありますので、それに耐えられるだけの忍耐力が必要です。卒業論文はゼミ論文以上の内容・分量等を要求します。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】			
【授業予定】第1回 ガイダンス、輪読する書物の決定 第2回 割り当て、報告の仕方 第3回 論文の書き方 第4回 資料収集の方法 第5回～ 輪読(報告と討論) 9月初め ゼミ論テーマ調査(6月に用紙配付) 11月末までに、ゼミ論の第1稿を提出してもらいます。 12月～1月は、ゼミ論の中間報告をしてもらうことがあります。 2月末(4年次生は1月末)までに、最終稿を提出してもらいます。			
【使用教科書】受講者と相談のうえ決定します。論文の書き方等については、中道寿一編『政策研究』(福村出版、2011年)。			
単位取得要件	ゼミ論、出席、日常の報告の内容、討論への参加度を総合的に評価します。ゼミ論を提出しない場合は、単位を与えません。無断欠席を3回した場合には履修放棄したものとみなします。報告が悪い場合には何度でも報告をしてもらいます。		
備考	エントリーシートを提出し、受講許可を得た者のみ履修できます。		

BB31 212

授業科目	行政学演習Ⅰ (Seminar on Administrative Analysis Ⅰ)		
担当教員	伊藤 修一郎	研究室	人社B407
単位数	3単位	オフィスアワー	月曜4時限
学期曜時限	1～3学期 月曜6時限	授業対象学生	3・4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】			
政府、地方自治体、公共政策、NPO等に関する実証的研究を実施するための技法と理論を学ぶ。参加者による基本的文献の輪読と研究計画・調査結果の報告によって進める。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】			
○ 基本的テキストの輪読： 政府・自治体の組織や政策過程について論じた文献、調査技法を学べる文献、自治体の実態が描かれた文献を選定し、担当者を決めて輪読する。調査・研究の技法の基礎から学ぶので特別の予備知識は必要ない。			
○ 調査： 地方自治体や中央政府の政策及び組織のあり方、NPOの活動内容など各自が選んだテーマを探求する。たとえば、なぜA市ですぐれた政策を展開しているのにB市ではそれができないのか。C町で効率のよい事務処理が行われ、全国的に注目されているが、それはなぜか。こうしたテーマを設定し、1年間の調査、文献講読、討論を通じて、答えを探求するとともに、4年次における卒業研究を遂行できるだけの力をつける。			
* 他のゼミとのかけもちや政治学専攻以外の学生も歓迎します。			
研究室HP(http://member.social.tsukuba.ac.jp/ito/)			
単位取得要件	毎回のゼミへの参加とゼミ論(又は卒論)の提出		
備考			

BB31 232

授業科目	東洋政治思想演習 I (East Asian Political Thought Seminar I)		
担当教員	古田 博司	研究室	3K422
単位数	3単位	オフィスアワー	火曜4時限・金曜6時限
学期曜時限	1～3学期 火曜5時限	授業対象学生	3・4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】			
①リアリストの政治学を学ぶ。②国家理性について考える。③戦前の政治思想との比較を行う。 本年度から、厳しく指導する予定である。学生諸君には、就職活動で頻りに欠席せざるを得ないようであれば、はなはだ遺憾であるが、本講義の履修を控えるように勧めねばならない。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】			
①リアリストの政治学 ジョン・J・ミアシャイマー『大国政治の悲劇』(五月書房)を輪読する。 ②国家理性について マイネッケ『近代史における国家理性について』を輪読する。 ③戦前の政治思想 大川周明『日本二千六百年史』『日本精神研究』、その他を輪読する。 全編を読むわけではなく、適宜コピーにて配布する予定。①のテキストのみは多くを使うため各自買うことが望ましい。			
単位取得要件	出欠点 毎回レポート提出		
備考			

BB31 252

授業科目	欧米政治外交史演習 I (Seminar on Western Political and Diplomatic History I)		
担当教員	松岡 完	研究室	人社棟A403
単位数	3単位	オフィスアワー	11:30-12:00(1・2学期)、13:00-13:30(3学期)
学期曜時限	1～3学期 金曜4時限	授業対象学生	3・4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】			
【目標】アメリカを中心に、冷戦期およびその後の政治外交史について学ぶこと。 【要望】口頭での報告と質疑・討論、レジュメの作成、ゼミ論文の執筆などをつうじて、一定の問題について疑問を抱き、それについて自分なりに調べ、その要点をまとめ、考えを発表する訓練を深め、それを今後の研鑽の基礎とすること。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】			
(1) 各自の研究発表を考えているが、参加者の関心を最優先し、必ずしも狭い意味の「欧米政治外交史」にはこだわらず、広く国際関係史全般を学ぶ機会とする。 (2) 年間予定や授業の進め方など、詳細は4月の顔合わせの際に協議する。 (3) したがって第1回授業には遅刻・欠席しないこと。やむを得ない場合は事前に連絡すること。無断欠席・遅刻者には受講を許可しない場合もありうる。			
単位取得要件	ゼミ論文、および平常(出席を含む)点		
備考			

BB31 272

授業科目	現代政治分析演習Ⅰ (Seminar in Contemporary Political Analysis I)		
担当教員	近藤 康史	研究室	人社B412
単位数	3単位	オフィスアワー	火曜14:00～16:00(3学期のみ14:30～)
学期曜時限	1～3学期 火曜6時限	授業対象学生	3・4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】			
<p>①文献報告あるいは研究報告を通じ、現代政治上の様々な論点について分析・議論し、幅広い政治学的知識や思考、視角を獲得する。その上で、自分の関心あるテーマに対し、複眼的・多角的にアプローチできる力の修得を目指す。</p> <p>②各自が選んだテーマに関し、自分なりの視角から研究する。4年生はゼミ論あるいは卒論を執筆する。</p>			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】			
【年間予定】			
<p><1学期> 現代政治上の諸テーマに関する文献を読み、議論する。文献は参加者の関心を聞いた上で選択するが、現代政治上のアクチュアルな論点を対象としつつ、理論や方法、比較など、幅広い観点から議論できるものを取り上げる予定。3年生は、これらの過程で文献の読み方やレジュメのまとめ方を学ぶとともに、今後の研究に向けて、各自の関心を絞っていく。</p> <p><2学期> 自らの研究テーマに関する発表を行う。3年生は、自らの関心にしたがって選択した文献の報告を行い、関心や今後の方向性の明確化を図る。4年生はゼミ論・卒論へと向けた研究発表をする。両学年とも、これらを通じて「プレゼンテーション力」を磨くことも目標となる。</p> <p><3学期> 12月・1月は、各種の政治学の「論文」を輪読することで、「政治学の論文の書き方」を学び、議論する。2月は、4年生が提出した卒論・ゼミ論の発表を行う。</p>			
【予習復習・その他】			
<p>・参加者には、①テキスト(週に新書半分ないし論文1本程度)を読んでくることが求められるとともに、自らの状況に応じて②各自の関心に従ってその他の政治学文献を読むこと、③新聞等を通じて現在の政治状況に関心を払うことが要求される。</p> <p>・他のゼミとのかけもちも歓迎する(その場合、ゼミ論等については配慮する)。また、やる気と関心さえあれば、他専攻や他学類の学生も受け入れている。</p> <p>・他大学との交流として、一橋大学との合同ゼミを行っている。</p>			
単位取得要件	出席、報告、議論、提出物など、ゼミでのパフォーマンスで総合的に判断		
備考			

BB31 292

授業科目	憲法演習Ⅱ (Seminar on Constitutional Law II)		
担当教員	土屋 英雄	研究室	人社B403
単位数	3単位	オフィスアワー	授業当日
学期曜時限	1～3学期 火曜6時限	授業対象学生	3・4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】			
<p>メディア関係の事件の判例の読み方の訓練 (受講希望者は面接を4月12日〔火〕午後4時～6時に研究室にて行う)</p>			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】			
<p>別冊ジュリスト『メディア判例百選』(2005年、有斐閣) 学生の報告と討論を中心として授業を進める。</p>			
単位取得要件	授業出席とレポート評価		
備考	法学(BB21 122)と共通		